



西上 和宏（済生会熊本病院 集中治療室部長）

こんにちは。済生会熊本病院の西上和宏と申します。超音波（エコー）検査を通じて医療に貢献したいと志を持つ済生会グループの方々により、済生会超音波研究会が立ち上がりました。エコー検査は、聴診器と同じように患者さんに負荷をかけることなく、医師、技師、看護師が日々の診療に役立てることが出来ます。広く医療者がエコーを扱えるようになれば、それだけ医療レベルが向上し、社会に貢献できると思います。済生会は「生命を救う道」を広めるという目的の下、全国の支部がたゆみない努力を続け今日に至っております。この同じ使命感を持つ私達が、お互い協力し、共に勉強して、エコーをより医療に役立てる事ができるよう済生会超音波研究会は活動していきたいと考えています。広く皆様の御賛同を賜り、長年のエコー経験者から若手の医療者へ襁褓のようにエコー技術を伝えることができる場になることを願っています。



仁平 武（水戸済生会総合病院 副院長）

超音波は、機動性が高く、放射線被曝もなく、精査にも対応し、臨床現場で非常に有用な画像診断です。ただし術者の十分な知識と手技の習得が必要です。医師臨床研修では重要性は強調されていますが、さける時間が少ないのが現状です。超音波検査を、短い時間で、ある程度の基本が身に付くようにすることが、この研究会の一つの目標にもなっています。済生会の叡智を結集して実現したいと思っています。



金田 智（東京都済生会中央病院 放射線科部長）

超音波検査はひろく行われていますが、まだまだ検査の技術レベルによって診断精度の差がでてしまう検査です。また使用する目的によって求められる技術や診断精度の水準が異なってしまうことも事実です。全国の済生会には様々な施設があり、いろいろな職種、いろいろな立場で超音波検査を利用していると思いますが、お互いが刺激しあって一段レベルアップした超音波検査を使えるようになるお手伝いができればと思います。



今川 敦史（済生会中和病院 病院長）

済生会共同研究「済生会超音波研究会による集学的医学超音波教育」に採用され、「済生会超音波研究会」は発足しました。この研究会は、済生会の超音波診療に携わる医師、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師などの多職種連携の皆さんの技術・情報交換の場となり、超音波検査の質とレベルの向上に資して大きな成果が生まれることを期待します。



高橋 秀一（済生会中和病院 副医療技術部長 兼 中央検査室技師長）

超音波検査に携わって30数年になります。プローブを握ると展開される画像、所見はもとより、患者さまとの対応の中で新たな発見や感動を日々受けております。それが技師としての『考動力』と感じるようになりました。本研究会で、これらの話題が共有できれば幸いです。